

図書だより

12月

田原本町立北中学校
令和5年12月
第6号

もうすぐ冬休み♪



早いもので、もうすぐ冬休みが始まります。そして、2023年が終わり、2024年を迎えます。皆さんにとって2023年はどんな1年でしたか？ 新型コロナウイルスの爆発的な流行も少しずつ落ち着いてきて、コロナ前の日常に戻りつつあります。制限が解かれ、日常生活に彩りが戻ってきたように感じます。来年も充実した1年になるといいですね。

私たちは、新型コロナウイルスによって不自由で不便な生活を強いられてきましたが、地球規模で考えると悪いことばかりではなかったようです。ハワイのビーチがきれいになり、その環境を守ろうという動きが出てきたと言う話や、フランスでロックダウンした時期に大気汚染が劇的に改善されたことから、自転車で行動する人が増えたという話、さらには、国外に出かけられないからということで国内に出かける人が増え、自国の良さに改めて気づいた人が多数いたなどの話もよく耳にします。失ったものばかりに目を向けるのではなく、新たに手に入れたものにも目を向けたいものです。

おすすめの本



「サステナブル・ビーチ」小手毬 るい(さ・え・ら書房)

「サステナブル・ビーチ」——そんな名前の小部屋に、七海(ななみ)は入った。永遠につづいていく、すべての生き物たちのための、きれいな海辺。そこで、七海が目にしたものは……。
たったひとつしかない海を守るために、今できること。七海の「夏休みアクション」が始まる——。



「クジラのおなかからプラスチック」保坂 直紀(旬報社)

2050年に海の魚の重量を超えるといわれるプラスチックごみ。地球温暖化にならぶ環境問題として世界中が注目しています。世界でも、とくにプラスチックごみが集まりやすいとされる日本の海。その実態は？ 人体への影響は？ 世界は、日本はどう動いているのか？ 海洋プラスチックごみ問題の最前線を伝える。



捨てないパン屋の挑戦
しあわせのレシピ



井出留美

「#マイネーム」黒川 裕子(さ・え・ら書房)

海とキャベツの町、千葉県銚子市にくらす中学1年生の明音(みおん)は、両親の離婚によって名字が変わったばかり。入学した杜中(モリチュー)では“さんづけ”運動が始まり、新しい名字が強調されることになった。

そんなとき、SNSで、地元中学生限定のスレッド【自分の名前がきらいなやつ集まれ#マイネーム】に出会う。

「捨てないパン屋の挑戦 しあわせのレシピ」井出 留美(あかね書房)

捨てないパン屋として評価される田村陽至氏の人と思想を、食品ロスの専門家として数多くの受賞を誇り、食品ロス削減推進法成立の原動力となった井出留美氏が活写する。捨てないパン屋になるまでの葛藤を通じて、自然への深い愛情と、食品ロスなき未来への希望を描いたノンフィクション。

「マスク越しのおはよう」山本 悦子(講談社)

第63回日本児童文学者協会賞受賞!

審査員満場一致の名作!

小山さんにマスクの性能を疑われてから、マスクが気になってしょうがない。だいたい、あたしと妹は3枚しかマスクを持っていない。「ヒョウ柄マスクのプリンセス」など、コロナ禍の子ども達の心をリアルを描いた5編を収録。

11月の多読賞!

順位	1年生	冊数	順位	2年生	冊数	順位	3年生	冊数
1		22	1		7	1		1
2		15	2		4			
3		11	3		3			
4		9	4		2			
5		6	5		2			
6		3						
		3						
		3						
9		2						
		2						
		2						
		2						